

6月の全校朝礼

今月も放送室から、校内放送での全校朝礼です。今回は、「なまえのないねこ」という絵本を紹介しました。

「この猫に飼い主はいません。いつも街の中で暮らしています。そのため、誰にも名前を付けてもらったことがありません。呼ばれたとしても、ただの『ねこ』でした。けれど、街の中で出会う猫たちは、みんな名前を持っていました。くつやさんの猫は『レオ』、本屋さんの猫は『げんた』、おそばやさんの猫は『つきみ』と名前を付けられ、飼い主にかわいがられているのです。



あるとき、『なまえのないねこ』は自分にも名前が欲しいと思い、街中をいい名前がないか探し回りました。なかなか、いい名前が見つかりません。雨が降る日、公園のベンチの下で雨宿りしていました。名前も見つからず、聞こえてくる雨の音で、心が沈んで行くばかりでした。

そこへ、女の子が『おなか すいてるの?』と声をかけてくれました。『きれいなメロンいろの目をしているね』との優しい言葉を聞いて、自分がほしかったのは名前ではなかったことに気づきました。『なまえのないねこ』がほしかったのは、名前を呼んでくれる人だったのです。きっと、自分を呼んでくれて優しく遊んでくれる人がほしかったのでしょう。

みなさんは、自分の名前を持っています。この猫のように名前が欲しいとの思いになったことはないはずです。しかし、自分の名前を誰からも呼んでもらえず、誰とも話をしない日が続いたら、どんな気持ちになるのでしょうか。きっと、雨降りの日にベンチの下で猫が感じたように、心が沈んでいってしまうでしょう。

名前をきちんとよばれることで、相手から認められているという感情が生まれます。自分の名前を呼んでくれる人に対して、親しみさえ感じるようになります。

絵本は、雨の降る中、女の子の傘に入りながら『なまえのないねこ』と一緒に歩く後ろ姿の場面で終わっています。きっと、この後、『なまえのないねこ』は女の子に名前を付けてもらい可愛がられたでしょう。

悩んでいたり考え事をしたりしているとき、周りの人が心配して声をかけてくれると心が落ち着きます。クラスの中で、あまり周りの子から話しかけられずに寂しい気持ちになっている人は、いませんか。そんな子がいたら、名前を呼んで話しかけてください。

雨降りのベンチの下にいる猫を見つけた女の子の優しい言葉は、『なまえのないねこ』の心を明るく優しい気持ちにさせました。優しい言葉は、周りの人の心を優しくします。優しい言葉が人から人へ伝わり、みんなが優しい気持ちで過ごせるクラスや学校にしていきましょう。」